

26L-am10

オキシコドン徐放錠の1日分割回数と鎮痛効果および副作用の関連性に関する研究
○安藤 直子¹, 平山 武司^{1,2}, 川野 千尋^{1,2}, 黒山 政一^{1,2}(¹北里大院薬, ²北里大東
病院薬)

【目的】オキシコドン徐放錠(以下、Ox)の1日2回投与と1日3回投与における鎮痛効果と安全性を比較して、より適正な投与方法について検討した。【方法】北里大学東病院においてOxが投与された入院患者のうち、1日2回投与群46症例と1日3回投与群55症例を対象に診療記録から、全投与期間における一日平均レスキュー投与回数の調査および、全投与期間における便秘、嘔気、傾眠に関するSTAS(Schedule for Team Assessment Scale)を用いた評価を行った。なお、1日平均排便回数、緩下薬の使用状況も調査した。【結果】1日2回投与群の1日平均投与量(mean±S.D.)・平均総投与日数は107±161mg・10±7.8日、1日3回投与群はそれぞれ175±188mg・11±13日であった。1日平均レスキュー投与回数は1日投与量90mg未満では1日2回投与群(n=33):0.8±0.8回、1日3回投与群(n=25):1.2±1.2回であり、投与量90mg以上では1日2回投与群(n=13):2.4±1.4回、1日3回投与群(n=30):1.3±1.2回であった。便秘のSTAS平均値は1日2回投与群(n=37、Oxの平均投与日数9.0±6.3日):1.8±0.5、1日3回投与群(n=39、12±15日):1.4±0.7であった。緩下薬は未使用・単剤使用・2剤併用ともに両群間でほぼ同等であり、3剤併用は1日2回投与群の方が多く、1日あたりの排便回数は1日2回投与群:1.0±0.8回、1日3回投与群:1.2±1.7回であった。また、嘔気のSTAS平均値は1日2回投与群(n=46、8.1±5.3日):1.0±0.9、1日3回投与群(n=55、19±25日):0.9±0.9、傾眠のSTAS平均値は1日2回投与群(n=45、8.3±5.5日):0.6±0.8、1日3回投与群(n=53、19±26日):0.7±0.8であった。【考察】Oxは1日量として90mg以上を投与する場合、鎮痛効果および副作用の観点から1日2回分割投与より1日3回分割投与の方が望ましく、患者のQOL向上が示唆された。